

1. 「やあ、みんなおはよう！ 僕の名前は、ぶどうの枝次郎(えだじろう)。え？なに？よく見えないって？・・・」
2. 「ここだよ、ここ！ まあそれにしてもさあ、毎日毎日ぶどうの枝をやってるんだけどさあ、ヒマだよねえ。何にもすることないんだぜ。このぶどうの木につながっているだけじゃ、何にも出来ないよ。ああ、つまんないなあ、ヒマだなあ、何とかしたいなあ〜。」
3. 「もう限界だっ！ こんな生活、飽き飽きしたよ。こんなぶどうの木とはオサラバさっ！ 僕はこれから一人で生きていくからね。じゃあね~~~~~！！」

そう言って、枝次郎くんは、木を離れて行ってしまいました・・・。

4. 「ふんっ、どうだい、のどかな景色じゃないか！ いや〜、やっぱり木を離れて良かったよ。世の中の色々な景色を見て、楽しい思いをして、こうやって充分一人で生きていけるさ。もう僕は木になって戻らないよ。」
5. 「そうさ、木にくっついていなくたって、ぶどうの実くらい実らせることができるさ。一回しかない人生だ、僕の見たいものを見て、やりたいことをやって、楽しむだけ楽しんで、そうやってくらしていけば、絶対に大きな実が実るはずさっ！」
6. その時です、向こうから何やら火がメラメラ燃える音が聞こえてきます。そうです、火を持った人が近づいて来たのです。きっと、たき火をしようとして、落ちている枝を集めているのでしょう。
7. 「ひゃっ〜、怖い怖いっ！ あんな火をつけられたら、ひとたまりもないよっ！ 逃げなきゃ、急いで逃げなきゃ!!」
8. ようやく逃げたと思ったら、今度は恐ろしいオオカミの気配がするではありませんか！ お腹をすかしたオオカミが、何か食べるものを狙っているのです。もうすっかり怖くなって怖くなって、枝次郎くんは泣いてしまいました。
9. 「うわ〜ん・・・ 誰か助けて〜っ！」・・・と、どんなに泣き叫んでも、誰も助けに来てくれません。そうです、一人で生きられるなんて強がりと言っても、本当はさびしいし、つらいし、悲しいし、誰かに助けて欲しいんです。枝次郎くんは、ようやく自分の本当の気持ちに気付きました。
10. 聖書に、こういうみことばがありますよ。一緒に読んでみましょう。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。」 ヨハネ15:5

枝がぶどうの木につながっていなければ生きていけないように、私たちもイエス様につながっていてこそ、本当の意味での豊かな毎日、楽しい生活、幸せな未来を生きることが出来るんですね。

11. ぶどうの木のもとに戻った枝次郎くん、ほら、本当に幸せそう！ 枝次郎くんは、豊かな豊かなぶどうの実を結びましたよ。私たちも、イエス様につながりつづけようね。 おしまい。